Chapter 4

今再び、県都まえばし創生

幾多の困難を乗り越えて復興を果たした前橋市。現在は新しい前橋づくりを進めるため、「県都まえばし創生本部」を設置。産・官・学・金・労・言・市民の各分野と力を合わせ、人口減少社会に対抗する処方箋となる前橋版総合戦略の策定を進めています。

県都まえばし創生本部 有識者会議委員
共愛学園前橋国際大副学長・大森　昭生さん　46歳

有識者会議委員

今は前橋の第2の復興期です

みんなが力を合わせながら努力を重ね、戦災復興とその後の発展を支えてきた前橋市。本当の強さは、市民一人一人の力にあると感じます。

現在、前橋も他の地域と同じように、人口減少、少子高齢化という課題に直面していますが、これは根深い問題です。雇用の創出や子育て支援はもちろん、コンパクトシティー化や前橋のブランド力向上などが必要で、新しい前橋づくりが求められている時代。今は、前橋の第2の復興期にあたるのではないでしょうか。

今、若者たちが積極的に街に関わり始め、地域づくりの取り組みも定着してきています。イノベーションの動きも活発です。このような機運を高め、広げていく柱になるのは、やはり人なのだと思います。

こうした中、県都まえばし創生本部を設置し、4つの専門部会に分かれて検討が進められています。いずれも重要な施策ですが、次世代が育まれ、このまちに定着できる環境づくりは特に重要です。前橋で生まれ、前橋で育ち、前橋で学び、前橋で働いて、前橋で家族を形成。その子どもがまた前橋で学ぶというサイクルを醸成する取り組みです。

そのためには、次世代育成を家庭や学校のみが担うのではなく、市民や企業など、みんなが次世代を育む主体となることが必要だと思います。

なお、さまざまな取り組みを進めるには、新しいことはもちろん重要です。一方で、これまで行われてきたものを否定してしまうのではなく、今あるものを大切にし、改善の方策も探るべき。これまでの取り組みにも関わってきた人たちがいるのです。

前橋地域づくり連絡会委員長
鈴木　正知さん　51歳

前橋地域づくり連絡会委員長

人を信じてつながりを生み出す

地域づくりをする中で、地域の人と若者たちが、同じ立場でお互いを理解することで、地域が活性化する場面を見てきました。まずは、お互い理解し合い、信じることが基本。目指している方向はみんな一緒のはずです。

いろいろ行動しながら考え、模索し、話し合って軌道修正すればいいんです。無理をせずに楽しみながら。それが結果的に地域にいい影響を与えることになると信じ、私は行動しています。

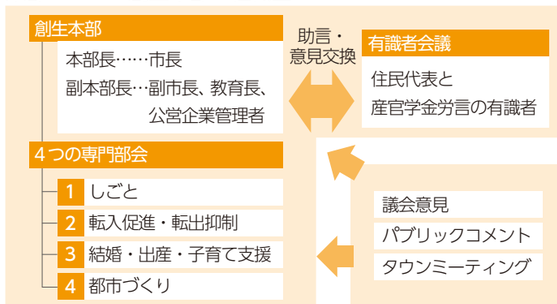
県都まえばし創生本部長

新しい前橋づくりに皆さんの力を

人口減少という構造的な課題は、市役所の力だけでは解決できません。市民の皆さんとともに問題意識を共有しながら、これまでにない危機感をもって前橋の創生に取り組んでいきます。

前橋市長　山本龍

県都まえばし創生本部　組織図



先人たちが未来を明るく照らそうと必死に作った今を生きています

戦争の悲惨さを風化させないためには今を生きる私たちが、戦争経験者の言葉に耳を傾け、平和や命の大切さを次世代に語り継いでいかなくてはなりません。

戦後の何もない状況から、市民は今の前橋をつくり上げました。復興の過程は決して全てが順調であったわけではありませんでしたが、知恵と力を出し合い、幾多の困難を乗り越えました。今の私たちの暮らしは、そんな先人たちの努力の上に成り立っています。

これから日本は、急速な少子高齢化と人口減少社会を迎えます。本市は、25年後には人口が17パーセント減少するという見込みの中で、現在を第2の復興期と位置づけ、新しい前橋づくりを進めています。

「今、あのパワーがあれば何でもできます」。これは、今回の取材の中で聞いた言葉です。戦争や復興をとおして市民が経験したことや知恵が、必ずこれからの前橋づくりの参考になるはず。当時の人たちが未来を明るく照らそうと必死に作ってくれた「今」を私たちは生きています。私たちは未来のために何が出来るでしょうか。皆さんも一緒に、平和で愛すべきふるさとづくり、新しい前橋づくりを考えてみませんか。